

海外における保健医療活動への参加経験から学んだ事

浦部 大策

聖マリア病院 国際事業部

私が海外医療協力活動に関わり始めたのは、JICA（日本国際協力機構）がパキスタン・イスラマバードで実施した小児病院プロジェクトに参加したのがスタートである。医師になって6年目、何もわからないままプロジェクトリーダーとして参加したが、着任し仕事を始めてすぐに自分が何もわかっていない事に気づいた。プロジェクトの目標は『Establish Center of Excellence』とされている。しかし、この病院の何がどうなったら、Center of Excellence を確立できたと言えるのだろうか？目標達成の為に、私はどんな活動をすれば良いのか？提示された目標を達成するのが自分の役目だが、目標の意味が抽象的過ぎて、プロジェクトの運営がさっぱりわからなかった。悩んだ挙句、私は病院という介入対象の、業務の『現状』を可視化する事を考えた。今の状況に満足できていないから、立派な病院にしたい、ということであろうから、まず病院の今がどう良くないかを表現しようと考えた。一般に病院の質を表現する属性には、臨床成績、最新治療、研究、病院管理など多様なものがある。その中で多くの人にこの病院の質が低いと感じさせる原因属性を拾い出し、その属性の質の現状を数値等で客観的に表現する事を試みた。我々が日常実施する活動で目指す目標には、ダム建設、学校建設などのように実体的で、活動成果が明確に可視できるものもあるが、「人材能力開発」や「生活の質改善活動」などのように、手で触れる事も目で見える事もできない、抽象的な目標も多い。実体的な目標では、活動の成果を目で直接確認できるが、抽象目標では介入前後で対象に起こっている変化を把握するのが難しい。そこで、私がこれまでの経験で学んだ事は、抽象目標に取り組む場合、まず対象の今を何らかの指標を用いて数値で表現し、活動投入で対象に起こった変化を同じ指標で表現できるようにする事である。保健領域の業務には抽象的な目標を掲げる場合が多い。抽象目標に取り組む場合、改善しようと取り組む課題が、ポジティブに変化する事を期待するわけであるから、自分が今取り組もうとしている『課題の現状』を指標で客観的に表現して、同じ指標で『目標達成時の状態』を表現する作業をしておく、活動の進捗把握が容易になる。保健活動を効果的に進めるには、この見えない対象課題を可視化する作業が非常に有効である。